

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | あいさつが響き 一人ひとりのよさが輝く 楽しい学校 |
| 重点目標 | 1 教育DXの充実と学びのポイントをいかした学ぶ楽しさ、わかる楽しさが実感できる教育の推進。 2 I S Sの取組を継承して、安心・安全な美しい学校づくり。 3 コミュニティ・スクールの充実と保護者、地域から信頼される学校づくり。 4 教職員の (well-being) に向けた資質向上と働き方改革の推進。 |

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | | |
|-----|---|-------|--------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 | (8割以上) |
| | B | 概ね達成 | (6割以上) |
| | C | 変化の兆し | (4割以上) |
| | D | 不十分 | (4割未満) |

| 年度 | | 学校自己評価 | | | 年度評価 | | 学校運営協議会による評価 | |
|----|--|---|--|--|---|-----|--|---|
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | |
| 1 | (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査結果から児童のつよみとよわみを把握し、学びのポイントを意識した授業の実施。 ○配慮を要する児童への学習意欲の向上と基礎学力の定着に向けた個別指導の実施。 (課題) ○全国学力・学習状況調査を分析すると、国語の「話すこと・聞くこと」、算数の「数と計算」が課題。 ○学ぶ楽しさ、わかる楽しさを味わわせるための指導の工夫・授業改善と個別最適な学びの充実。 ○個別最適な学びを充実させるための手段として、授業改善とICTの効果的な活用。 | ・国語・算数等における各学級ごとのつよみとよわみを明確にし、課題を解決に向けた方策の設定と結果の見届けを行う。 ・個別最適な学びを充実させるための授業改善とICTの効果的な活用 | ① 担任が自学級のつよみとよわみを明確にして、目指す児童の姿の実現に向けた方策を考え実施する。当初面談等を通して担任と確認をしながら実施する。日々の教室訪問や授業参観を実施して指導や見届けを行う。また、授業参観実施後に各学級の課題の確認と具体的な方策を設定することで見通しをもち学習指導を展開する。 ② 校内研修で全国学力・学習状況調査を分析して、本校の課題を明確にするともに、解決に向けての取組を協議する。また、学びのポイントを意識した授業改善や工夫の実現に向けた具体的な方策を立て取り組む。 | ① 児童の学校評価項目「先生はわかりやすく勉強を教えてくれる」と保護者の学校評価項目「個の発達や実態に応じた指導を受けている」が、昨年度より肯定的評価が上回ることができたか。 ② 自己採点の結果をもとに、学習目標を立て、自ら行動したことを振り返ることができたか。 | ① 学テの結果を分析して考察する時間を設定し、成果と課題から今後の授業にいかす研修を設定した。また、「学びの指標」や「よい授業」等アンケートを活用することで各自のつよみとよわみを明確にし、授業改善へとつながられる校内研修を実施した。自分の成果と課題をもとに一人ひとりと面談することで3学期の授業改善等のアドバイスを実施した。 ② 学校評価「学校課題研修に主体的に取り組んでいる」において、肯定的評価が95%を上回った。 | A | ① 当初面談から、担任が児童の実態からつよみとよわみを分析したことをもとに、主体的に取り組める活動を計画する。今後は、子どもたちに「わかりやすい授業」と受けとめてもらえるように、めあてをより明確にした授業展開としていく。 ② 研修テーマをに向けて、各ブロックで児童に実態に合わせたアプローチを掲げることで具体的な手立てを立てることができた。また、学びのじしゃくを意識した授業を実施した。 | ・ICTを効果的に活用し、児童のつよみとよわみにアプローチした個別最適な学びを推進している。 ・タブレット端末の活用でわかりやすい授業を推進し、児童個人の進捗状況に合わせた指導を行っている。プロジェクター、タブレットを駆使し、きめ細かい指導を実施している。先生方は、新しい機器を活用できるように勉強をよくやられていることがわかった。 ・先生方がたくさん工夫されて授業を行ってくださっていると感じている。「わかる」＝「楽しい」につながると思う。 ・今後も、具体的な方策通りでお願いしたい。また、他校にも負けないよう教育し、外国人等の児童にも上手な指導を願いたい。 |
| 2 | (現状) ○ISS (インターナショナルセーフスクール) 国際認証校(令和2年1月まで)を継承するための活動を実施。 ○新体制一年目の生徒指導委員会の実施と教育相談委員会の連携。 (課題) ○ISS (インターナショナルセーフスクール) 認証校としての取組を継承した取組の見直しと設備の修理。 ○安全で美しい学校を目指した安全点検や環境整備、清掃活動の充実。 | ・生徒指導、教育相談、特別支援教育部会の充実。 ・児童にとって安心・安全な学校となるための環境整備。 | ① 生徒指導委員会を充実するために、具体的な対応策を練る場とする。また、ケース会議や専門機関につなげることで支援の充実を図る。 ② ISSを継承する活動を見直し、児童が安心・安全について主体的に考え行動できるような取組を年間指導計画に位置付ける。 | ① 生徒指導、教育相談部会の見直しを図り、児童の支援を計画的、組織的に対応することができたか。 ② ISSを継承する活動を、年間指導計画に位置付けることができたか。 | ① 生徒指導部会や教育相談部会の見直しを図り、ケース会議を組織的に実施できた。児童や保護者への迅速な対応、見届けを重点にした。また、児童一人ひとりに寄り添い、組織で丁寧に対応している。 ② 今年度、児童理解研修と生徒指導委員会の方法や内容の見直しを実施した。情報共有や生徒指導委員会、ケース会議等の組織での対応を迅速にし、内容が充実してきている。 | A | ① 今後も児童一人ひとりに寄り添い、組織で丁寧に実施していきたい。 ② ISSの目標を継承するために、安全部を中心として行事を効果的に行うことができた。 | ・ISSの取組から知っている一人としては、安心・安全な学校ということでは守られていると感じている。今後忘れ去られることなく続けてほしい。 ・ISS 認証時のスキルを活かし、子どもたちが安全に過ごせる学校づくりが安心へつながっていくと思う。経年劣化していくものもあるので、点検して安全性を高めてほしいと思う。 ・ISSの継承に当たっては、そぎ落とせるものは削除し、よいとこどりが望ましいと思う。 ・校内はいつも清潔にしており、階段のミラーも手入れされている。学校玄関は季節の花が花壇に植えられてきれいである。校庭もきれいである。 |
| 3 | (現状) ○学校運営協議会では、めざす学校像に向けて、子どもたちに付けたい力について熟識。よさである「進んであいさつができる」課題である「自分のよさを知り、自信へとつなげる」について教職員が共有。 ○学校運営協議会、SSN、防犯ボランティア連絡会を定期的に開催し、保護者や地域の方に、本校の教育活動や児童の様子を周知。 (課題) ○保護者、地域等への学校運営協議会等の取組や活動についての広報活動。 ○保護者や地域の方々へ、学校の取組や児童の活動の様子を周知するための工夫、改善。 | ・保護者、地域の方と連携した教育活動の実現 ・保護者、地域の方と連携した教育活動の実現 | ① 校長講話や学校だより、授業参観・懇談会等の挨拶で、学校運営協議会等の取組や児童の様子やよさを積極的に発信する。 ② 学校HPに、児童の活動を紹介するページを作成したり、学校運営協議会の取組を紹介したりすることでより多くの方に周知する。 | ① 児童と教職員の学校評価「美しい学校を目指し、環境美化に努めている」を新設する。肯定的評価80%以上になったか。 ② 安全点検を月1回確実に実施する。点検表や集約した内容の確認を、管理職・安全主任・事務が必ず目を通した上で対応する。 | ① 学校評価の項目「美しい学校を目指し環境・美化に努めている」において保護者85%を上回った。講話朝会や学校だよりを通して、自分たちで場を清める環境美化の意識を醸成に努めた結果、靴箱の靴そろえや昇降口が整ってきている。今後も、「くつそろえ、身の回りの整理整頓」を継続していきたい。 ② 複数の目で確認することにより、安心・安全な学校となるようにした。 | A | ① 「美しい学校」を合言葉に、清掃指導ではすみずみまできれいに掃除ができるように1m運動を推奨していく。また、全児童が「くつそろえ」「美しい学校」を意識できるように児童会と協力した取組を行っていく。 ② 安心・安全な学校を組織的に継続していく。 | ・朝の挨拶、廊下でのすれ違い時での挨拶等、明るくよくできている。「進んであいさつができる」児童が大変多いと思う。中学校においても、小学校時代の指導が生かされていると実感している。 ・保護者向けに発信される「学年だより」がなくなったことにより、子どもたちの学校生活の様子がわかりにくくなったと感じる。 ・子どもたちの地域のまとまりが、少ない気がする。自分の子どもが一番大切だが、親も地域のイベント等協力し合うことが大切だと思う。 ・学校ボランティアを募集する際には、保護者だけでなく、地域の方(スキルややる気のある方)にお願いすることも検討していただくと、地域と学校のつながりが生まれると思う。 |
| 4 | (現状) ○教職員が一人で悩むことがないように、組織で対応したり、学ぶ場を設けたりと情報の共有。 ○エンジェリストが中心となり、効果的なICT活用等について情報提供や研修を実施。 (課題) ○ICT活用において技能の差が見られる。技能向上に向けた研修の推進。 ○経験の差による教師の資質向上を図るために、OJTの推進と充実。 | ・教職員一人ひとりの資質向上と働き方改革の推進 | ① 学期ごとに実施する管理職による授業参観、毎月短時間及び長期休業中に実施する服務に関する研修、毎月短時間で実施する学級経営に関する研修、特別支援教育に関する研修、生徒指導に関する研修等において、必要に応じて講師も招聘しながら教職員研修を行う。 ② 個別最適な学びにつながるタブレットやスタディサプリ等の活用の仕方について、エンジェリストを中心に実技研修や情報共有を定期的に行う。また、教職員がお互いにより取り組みを情報交換できる雰囲気職場とする。 | ① 毎月OJTの推進となる学級経営に関する研修が実施でき、教職員の学校評価「資質向上につながる研修」の項目が、昨年度の肯定的評価を上回ることができたか。 ② エンジェリストが中心となり、授業で実践できるICT活用についての研修を行うことができたか。 | ① 学校評価「資質向上につながる研修」の教員が、4段階評価の4が48%だった。若手教職員へは必要に応じて学級経営、保護者面談、ノートの見方等、ポイントを絞ったアドバイスを行った。学テ結果からの振り返りから授業へと生かす研修を実施した。 ② 授業の中で学習タブレットやプロジェクターを活用する事例をエンジェリストが紹介し、効果的に活用している。また、ICTを活用しペーパーレスによる会議や情報の共有化の成果と考える。安心メールを効果的に活用したり、欠席連絡をFormsで実施したりすることができた。 | A | ① 教務主任、研究主任のリードのもと、本校の学習の進め方やノートの取り方のスタンダードを確立していく。また、年度当初に、国語、算数の示範授業を実施することで、学習の進め方や板書について共有していきたい。 ② 本校の課題として挙げられた、主体的な活動や本時のまとめを意識した授業となっているかを管理職による教室訪問等で見届ける。また、学テの結果をもとに、各自が分析して、成果と課題をあらいだしたものをもとに、何をすればよいかを全教員で研修することで授業にいかしていく。 | ・児童・生徒の健やかな成長には、教職員のwell-beingに向けた資質向上は不可欠であると考える。 ・あえて役割を替えて、お互いが教え合い、多才で助け合える集団(マルチスキル)にすれば、無駄の排除や業務負担バランス均衡に役立つと思う。費用対効果を求めることになり、残業を減らすことで時間の節約を要求されてしまいかもしれない。しかし「子どもたちのために」という根本的なことを追い求めていただきたい願いもある。 |

学校運営協議会による評価

実施日令和6年3月4日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等